

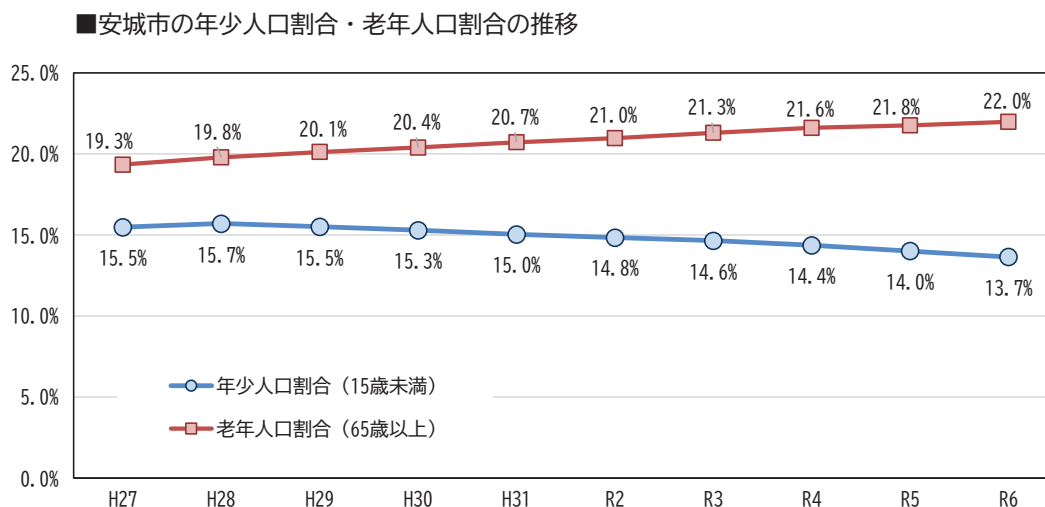
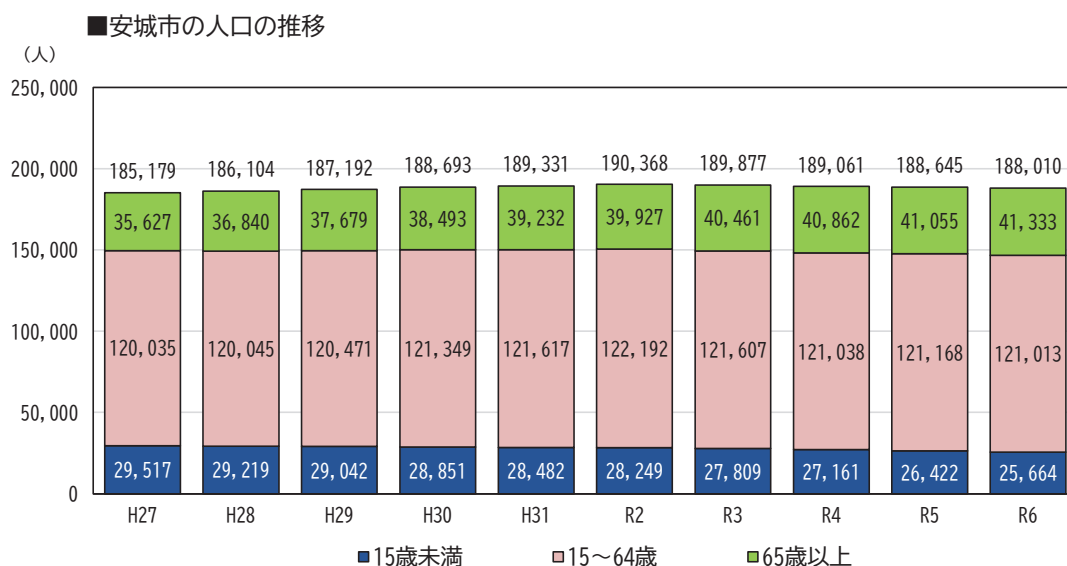
第2章 安城市のこども・若者を取り巻く現状

1 統計からみる現状

(1)人口の状況

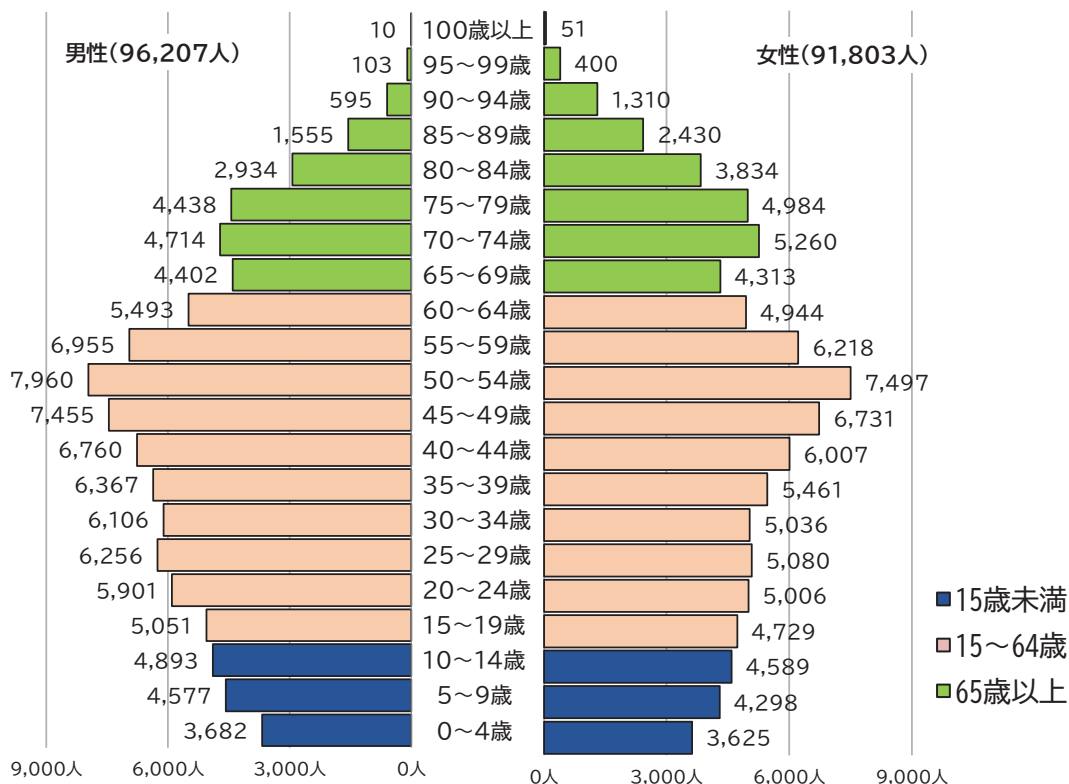
本市の総人口は近年、18万人～19万人台で推移しており、令和2年をピークに減少傾向にあります。年齢別でみると、15歳未満の年少人口は平成27年が、15～64歳の生産年齢人口は令和2年がそれぞれ最も多くなっており、65歳以上の老年人口は継続して増加し、令和3年以降は4万人を超えています。

また、年齢区分ごとの割合をみると、年少人口割合は減少し、65歳以上の老年人口割合は増加しており、少子高齢化の傾向が続いています。



本市の人口構成を男女別・年齢別にみると、男女ともに50～54歳のいわゆる団塊ジュニア世代の人口が全年齢区分の中で最も多くなっています。団塊ジュニア世代のこども世代にあたる部分にふくらみはみられず、他の年齢区分と比較して15歳未満の人口が少なくなっています。出産可能年齢の女性人口も減っていることから、さらなる少子化が危惧されます。

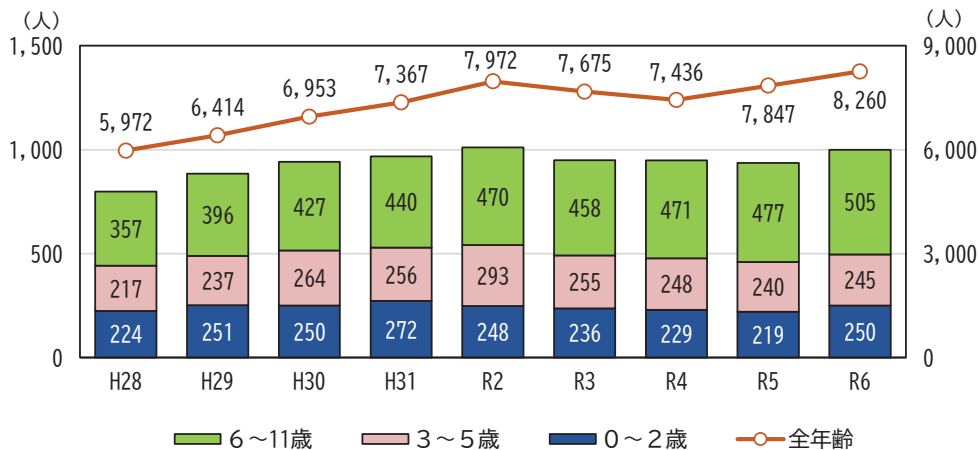
■安城市の人口ピラミッド



資料：住民基本台帳（令和6年4月1日時点）

本市の外国人人口は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国人の新規入国の停止があったことから、令和3年には若干の減少がみられましたが、それ以降は再び増加傾向にあり、令和6年には8,000人を超え、人口の4.4%を占めています。外国人児童人口も同様の傾向にあり、近年では増加傾向にあります。

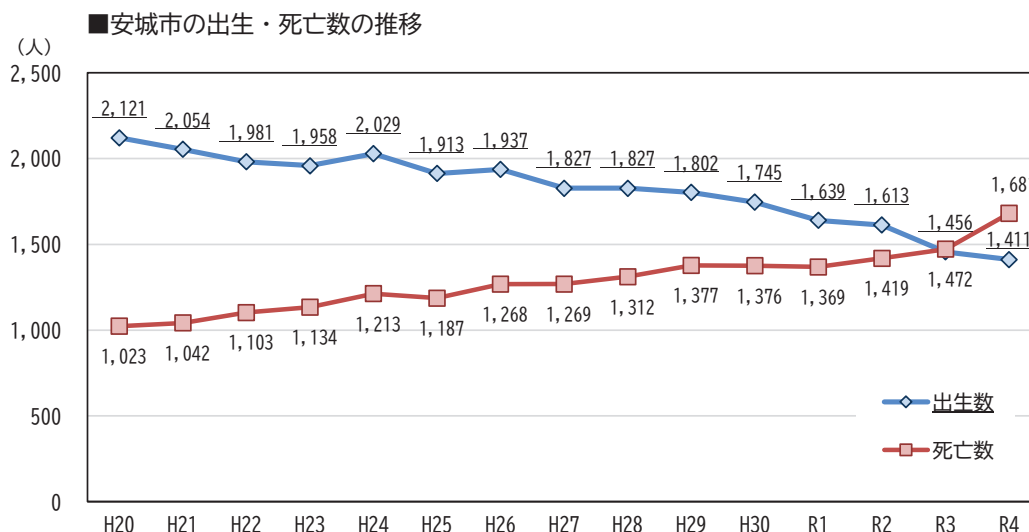
■安城市の外国人児童人口の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日時点）

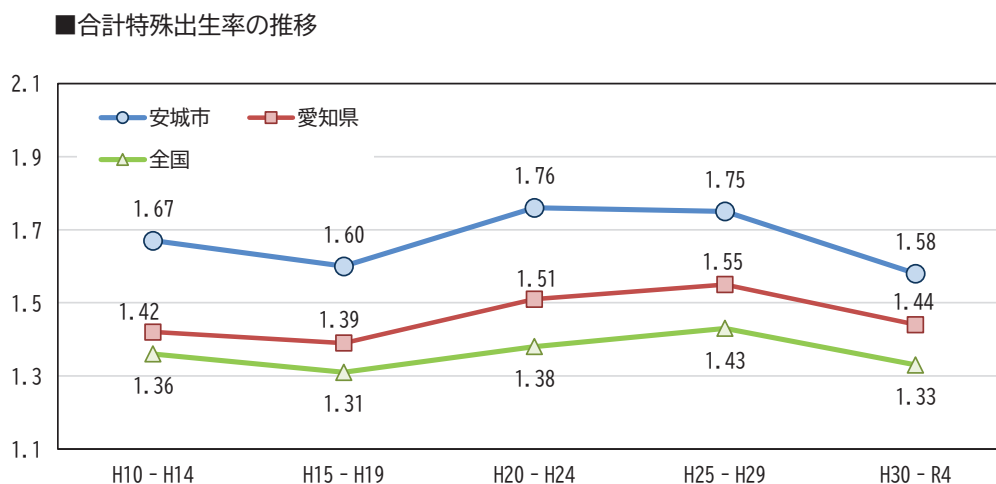
(2)出生等の状況

本市の自然動態をみると、出生は平成26年までは2,000人～1,900人台で推移していましたが、平成27年以降継続して減少しており、令和4年では1,411人と過去最少となっています。死亡は増加傾向となっており、令和3年以降は死亡が出生を上回り、自然減となっています。



資料：愛知県衛生年報

合計特殊出生率（15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に子どもを生むとしたときのこどもの数に相当する）の推移をみると、本市は全国平均及び愛知県平均を上回って推移しています。平成30年～令和4年の値では1.58となり、全国及び愛知県と同様に平成25年～平成29年の値より低下しています。

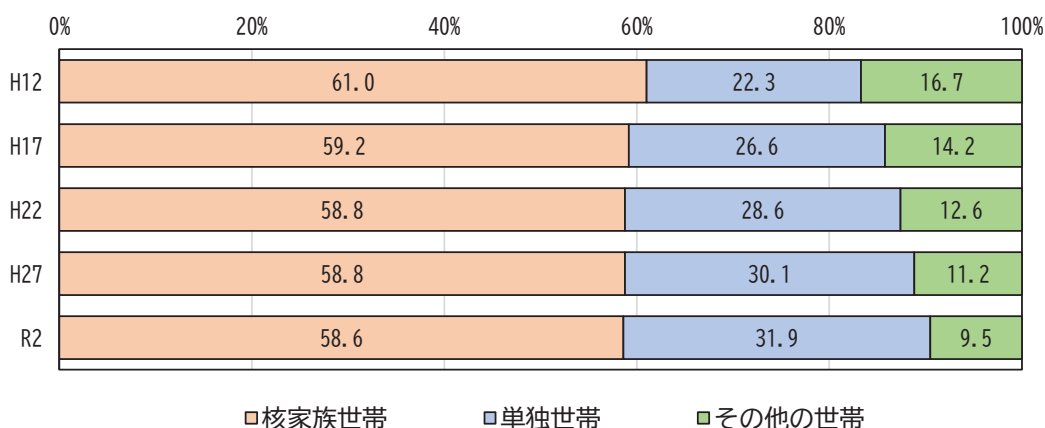


資料：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

(3)世帯等の状況

本市の一般世帯数における構成割合をみると令和2年では「核家族世帯」が58.6%と最も高くなっています。経年でみると、年々「単独世帯」の割合が高くなっており、3世代世帯を含む「その他の世帯」の割合が減少しています。背景には高齢者を含む一人暮らし世帯の増加や未婚者の増加があると考えられます。

■安城市の一般世帯数の構成割合の推移



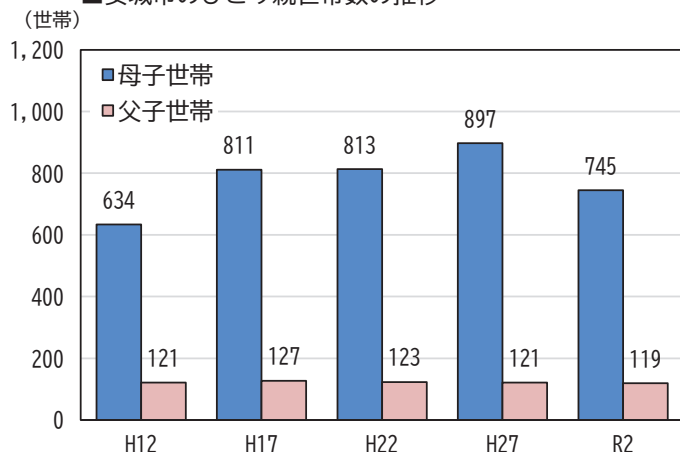
資料：国勢調査

※核家族世帯：「夫婦のみの世帯」「夫婦と子どもから成る世帯」「男親と子どもから成る世帯」「女親と子どもから成る世帯」のこと。
※「その他の世帯」には、世帯の家族類型「不詳」を含む。

本市のひとり親世帯数の推移をみると、母子世帯は、平成12年から平成27年にかけて増加傾向となっていました。令和2年にはやや減少し、745世帯となっています。また、父子世帯は平成12年以降、120世帯前後で推移しています。母子世帯数は父子世帯数の約6倍となっています。

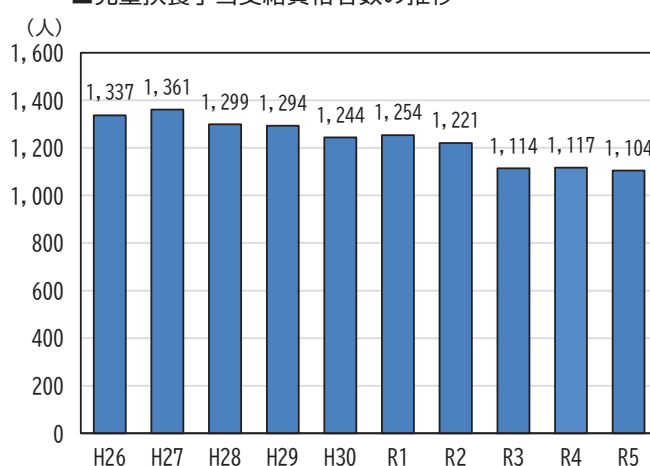
また、児童扶養手当（父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進に寄与し、児童の福祉の増進を図ることを目的として支給される手当）の受給資格者数の推移は、ひとり親世帯の減少に伴い減少傾向にあります。

■安城市のひとり親世帯数の推移



資料：国勢調査

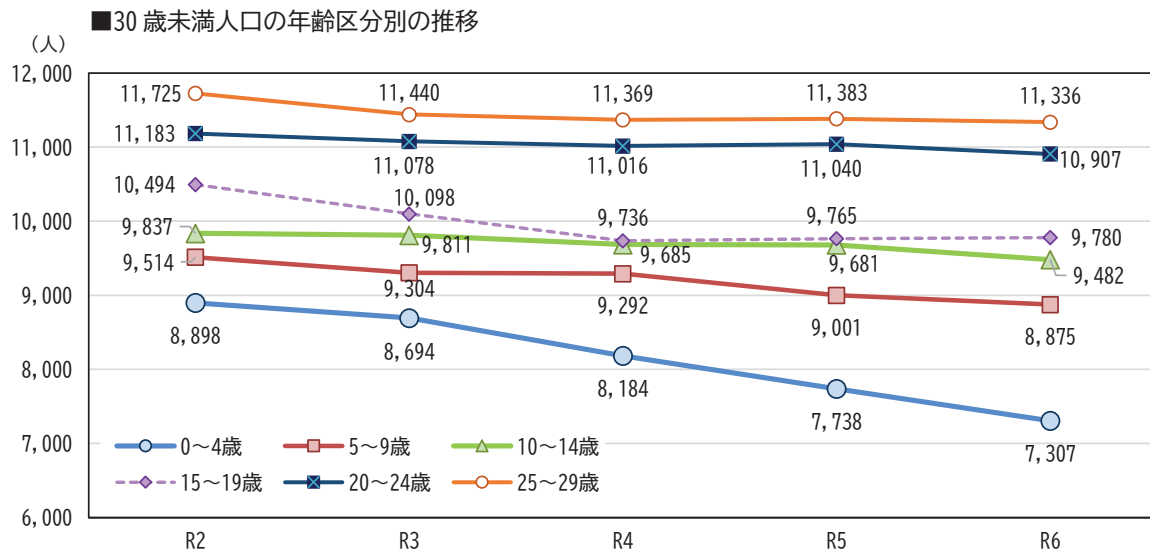
■児童扶養手当受給資格者数の推移



資料：安城市

(4)30歳未満人口の状況

本市の若年層の人口の推移をみると、特に0～4歳の年齢区分で大きく減少しており、出生数の減少が影響していることがうかがえます。令和2年と令和6年を比較して、0～4歳では17.9%の減少となっています。

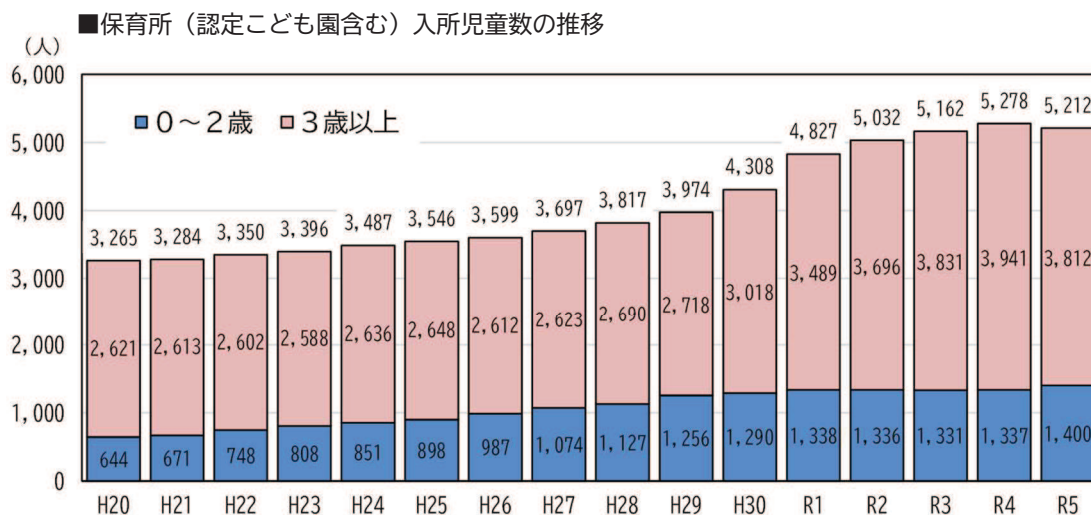


資料：住民基本台帳（各年4月1日時点）

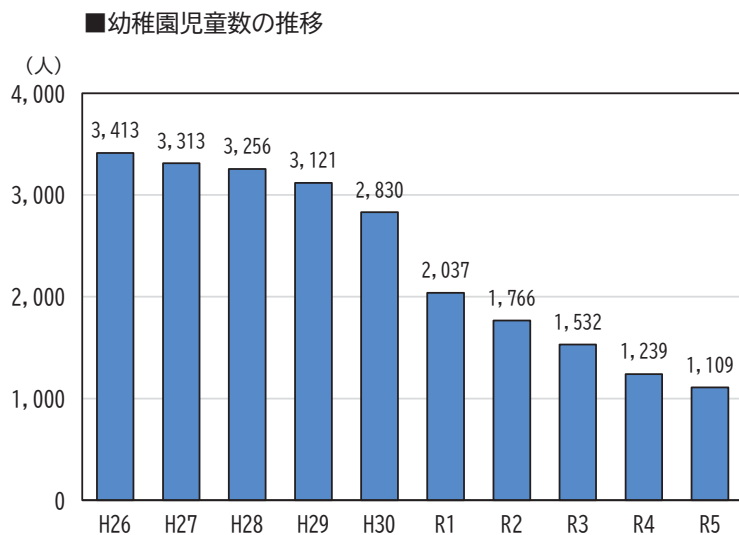
本市の保育所入所児童数の推移をみると、令和4年まで増加傾向にありましたが、令和5年でやや減少しています。年齢区分別でみると、0～2歳では継続して増加しています。また、幼稚園の児童数の推移をみると、継続して減少しており、令和2年以降1,000人台となっています。幼稚園の認定こども園化等が進んだことが影響しています。

児童クラブの登録児童数の推移をみると、継続して増加しており、特に公立の児童クラブで増加しています。

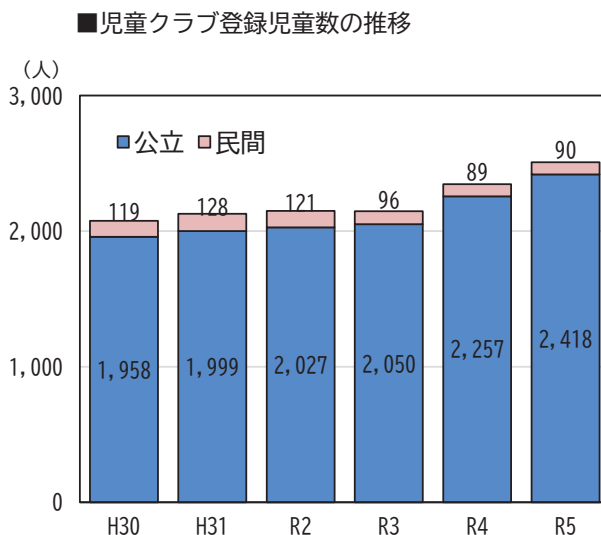
これらのことから、共働き家庭の増加や核家族化に伴い、保育ニーズが増加していることがうかがえます。



資料：安城の統計（各年4月1日時点）



資料：安城の統計（各年5月1日時点）



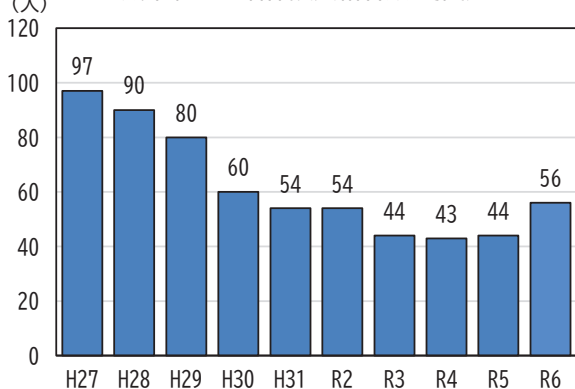
資料：安城の統計（各年4月1日時点）

(5)支援が必要なこども・若者の状況

18歳未満の生活保護受給者数、児童虐待相談件数は減少傾向にあったものの、直近では再び増加しています。本市においても、支援が必要なこども数は増加傾向にあると言え、取組が求められます。

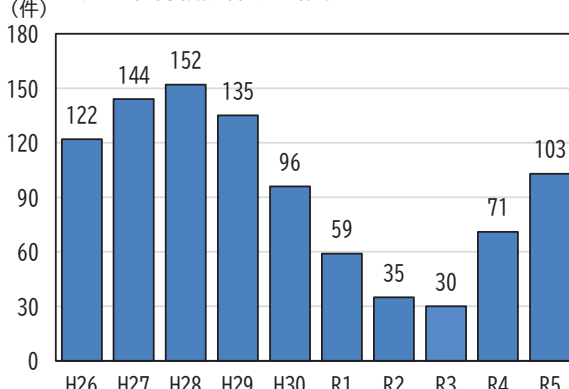
また、不登校児童生徒割合はいずれも継続して増加しており、特に中学校生徒では令和3年以降増加率が大きくなっています。全国的にも不登校児童生徒数は増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活環境が変化したことや、それに伴い学校生活での交友関係が築きにくくなったことなどが背景にあると言われています。

■ 18歳未満の生活保護受給者数の推移



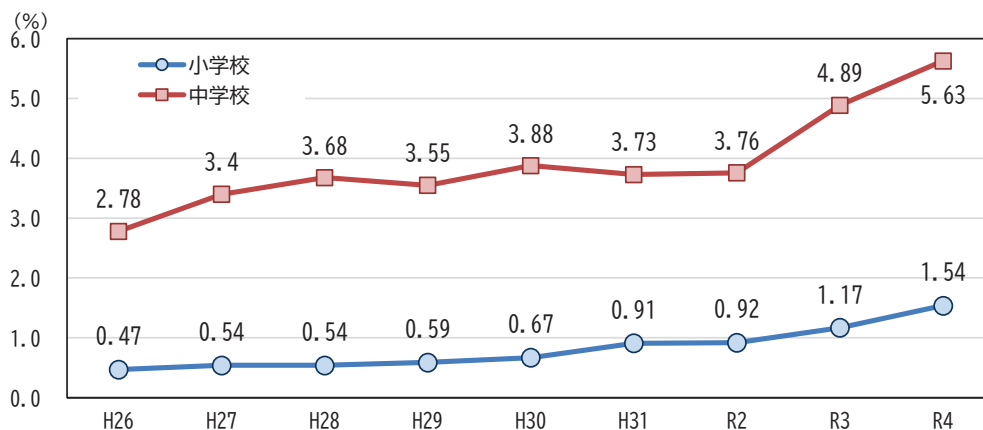
資料：安城市

■ 児童虐待相談件数の推移



資料：安城市

■ 不登校児童生徒割合の推移



資料：安城市学校教育プラン 2028

2 アンケートからみる現状

(1) アンケートの実施概要

本計画策定の基礎資料として、各種サービスに対するニーズ、本市の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯やこども・若者の生活実態、今後の要望・意見などを把握することを目的に、アンケート調査を実施しました。(調査期間：令和6年1月31日～2月16日)

■実施概要

調査区分	実施方法	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童保護者	郵送配布・郵送回収	1,500 件	757 件	50.5%
小学生児童保護者		1,500 件	743 件	49.5%
小学5年生・中学2年生	郵送配布・WEB 回答	各 1,000 件	770 件	38.5%
16歳～39歳の市民		1,000 件	376 件	37.6%

(2) 保護者アンケート結果

※図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表します。

※本文及びグラフ中の「就学前」は「就学前児童保護者アンケート」を、「小学生」は「小学生児童保護者アンケート」を簡略化したものです。

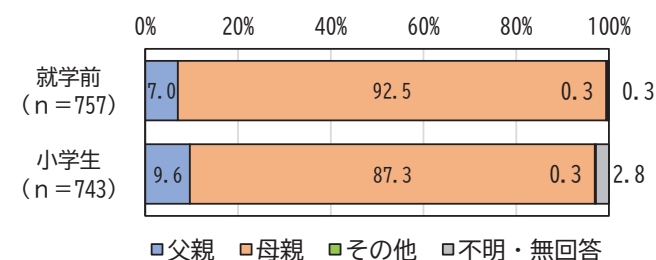
※比較に使用している「前回調査」は、平成30年12月に実施した「安城市の子ども・子育てに関するアンケート調査」を指します。

※選択肢は、原則として調査票に記載された表現のままとしています。

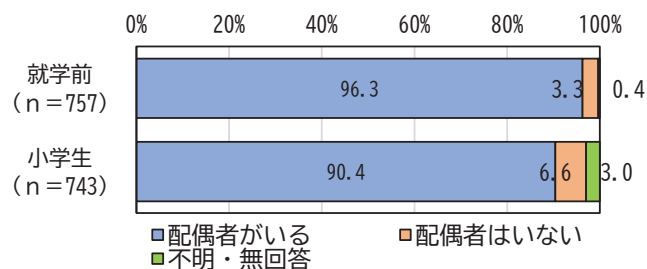
① 回答者の属性について

就学前、小学生ともに、回答者は9割前後が「母親」となっています。回答者のうち、就学前では3.3%、小学生では6.6%が配偶者はいないひとり親世帯です。また、子育てを主にしている人は、就学前、小学生ともに前回調査と比べて「父母ともに」の割合が大きく増加しており、男女共同による子育てが浸透しつつある状況がうかがえます。

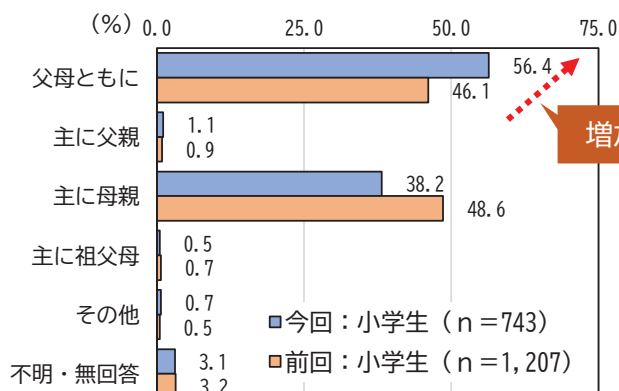
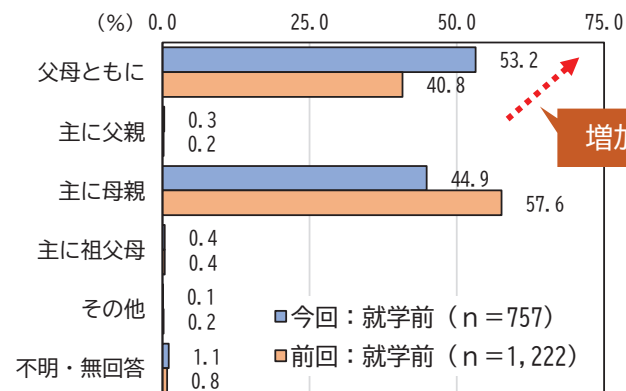
■調査回答者



■回答者の配偶関係



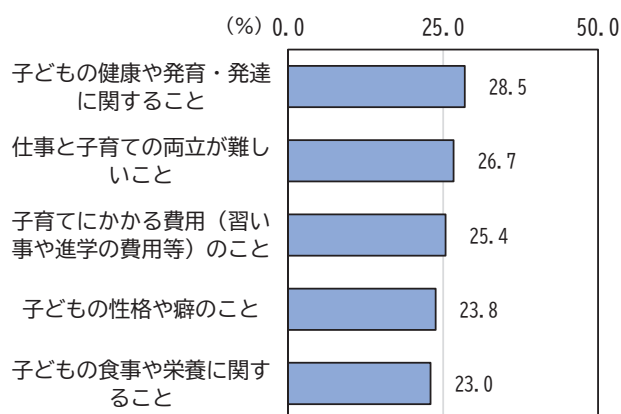
■子育てを主にしている方



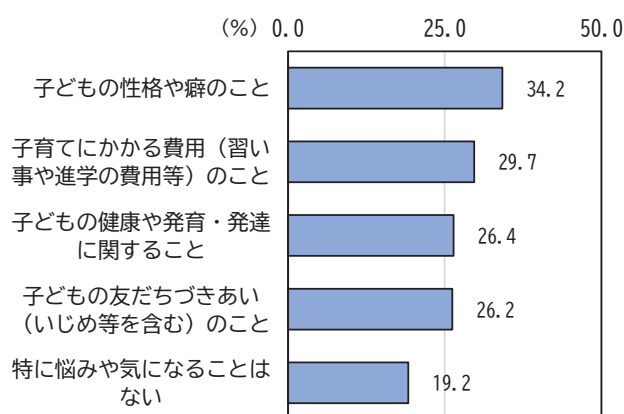
②子育ての悩みについて

主な子育ての悩みをたずねたところ、就学前、小学生ともに「子育てにかかる費用（習い事や進学費用等）のこと」が上位にあがっており、経済的な負担感が大きいことがうかがえます。また、就学前では「仕事と子育ての両立が難しいこと」なども上位であり、特に就学前の保護者に対しては両立を支える保育・子育て支援サービスの充実が求められます。一方、小学生になると「子どもの性格や癖のこと」「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）のこと」といった個性やコミュニケーションに関する悩みもみられるようになり、より個々の状況に応じた対応が必要になると考えられます。

■子育ての悩み【就学前】※上位5位



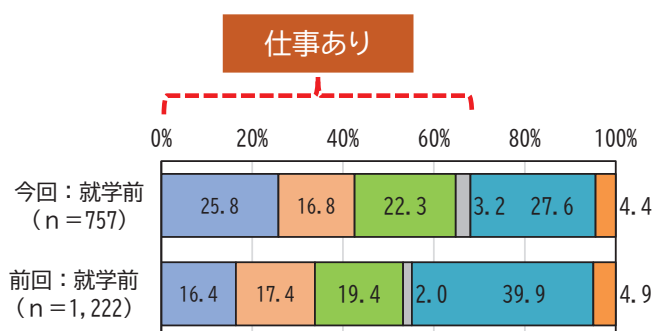
■子育ての悩み【小学生】※上位5位



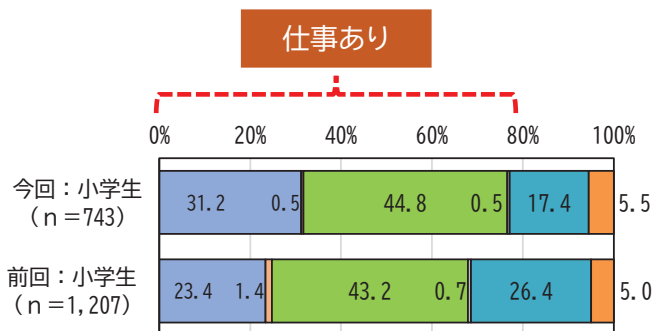
③母親の就労状況について

母親の就労状況をたずねたところ、休業中を含めて就学前で68.1%、小学生で77.0%がフルタイムもしくはパート・アルバイト等で就労しています。前回調査と比較すると、就学前、小学生ともに「現在は仕事をしていない」が減少しており、就労している母親が増加していることがうかがえます。

■母親の就労状況



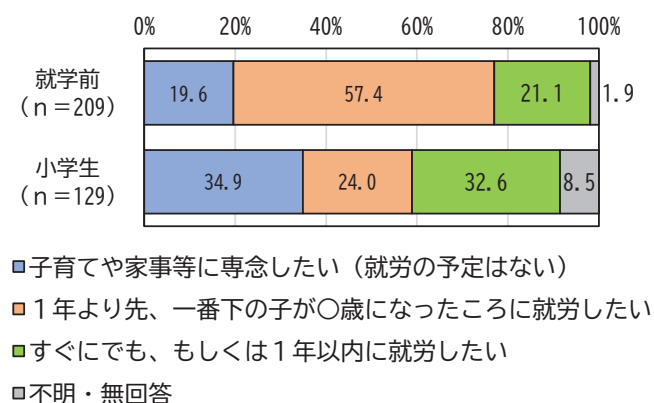
- フルタイムで働いている
- フルタイムだが、現在産休・育休等の休業中
- パート・アルバイト等で働いている
- パート・アルバイト等だが、現在産休・育休等の休業中
- 現在は仕事をしていない
- 不明・無回答



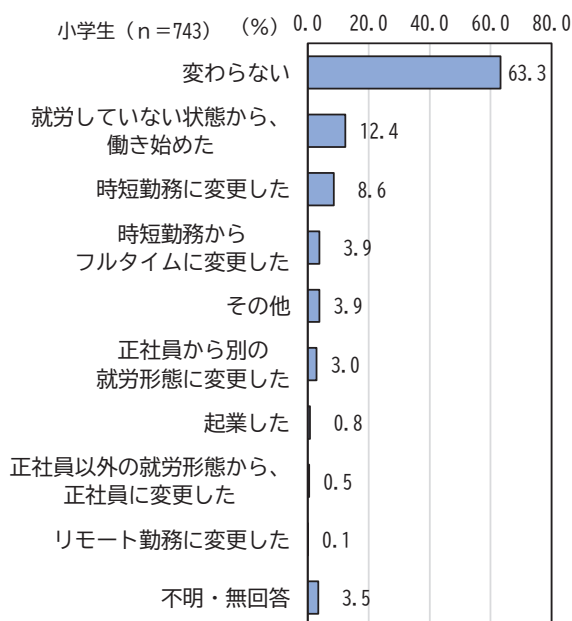
- フルタイムで働いている
- フルタイムだが、現在産休・育休等の休業中
- パート・アルバイト等で働いている
- パート・アルバイト等だが、現在産休・育休等の休業中
- 現在は仕事をしていない
- 不明・無回答

現在、就労していない母親に就労意向をたずねたところ、就学前で78.5%、小学生で56.6%が就労したいと回答し、多くの母親が就労を希望しています。また、小学生における子どもの小学校入学前後での母親の働き方の変更についてたずねたところ、「変わらない」が63.3%と最も高くなっているものの、約3割の母親が小学校入学前後を機に働き方を変更しています。小学校入学を機に、「時短勤務に変更した」や「正社員から別の就労形態に変更した」といった、仕事を減らす方向に変化したケースと、「就労していない状態から働き始めた」「時短勤務からフルタイムに変更した」といった仕事を増やす方向に変化したケースの両方がみられます。

■仕事をしていない母親の就労意向



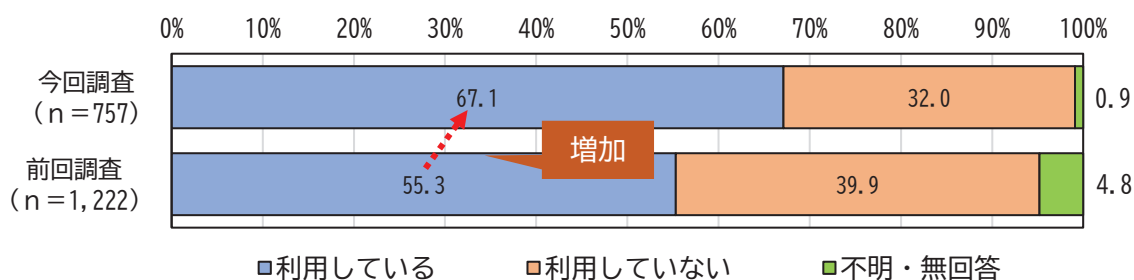
■子どもの小学校入学前後での働き方の変更について
【小学生】



④幼児教育・保育事業について

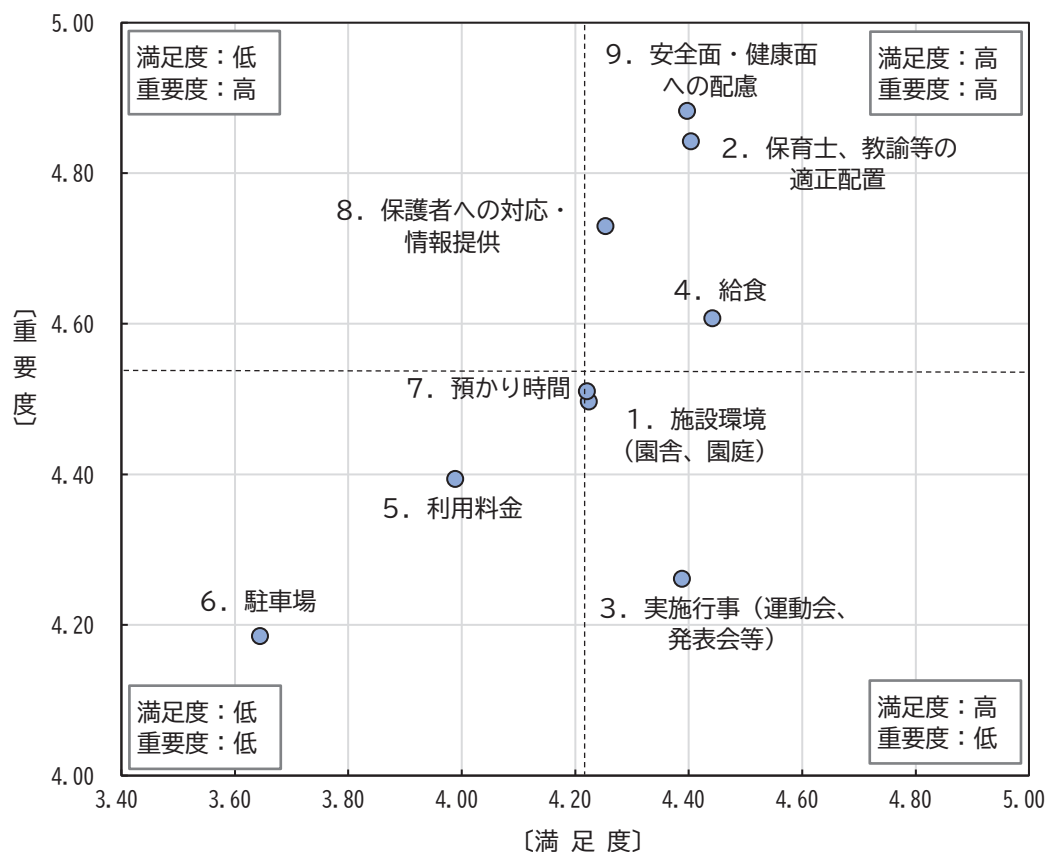
定期的な幼児教育・保育事業の利用状況をたずねたところ、67.1%が「利用している」と回答しています。前回調査と比較すると、利用している割合が11.8ポイント増加し、定期的に幼児教育・保育事業を利用している子育て世帯が増加しています。

■定期的な幼児教育・保育事業の利用状況【就学前】



■利用している施設の満足度・重要度【就学前】

定期的な幼児教育・保育事業を利用している方に利用している施設の満足度・重要度をたずねたところ、「9. 安全面・健康面への配慮」「2. 保育士、教諭等の適正配置」「4. 給食」「8. 保護者への対応・情報提供」では満足度・重要度ともに高くなっています。満足度が平均よりも低くなった項目は「5. 利用料金」「6. 駐車場」となっています。



※全9項目について、「重要度」「満足度」とともに5段階評価で、各点数にその点数の回答者数を乗じ、点数ごとに算出した値の合計を総回答者数で割って算出したものを、それぞれの項目の指数とします。(加重平均)

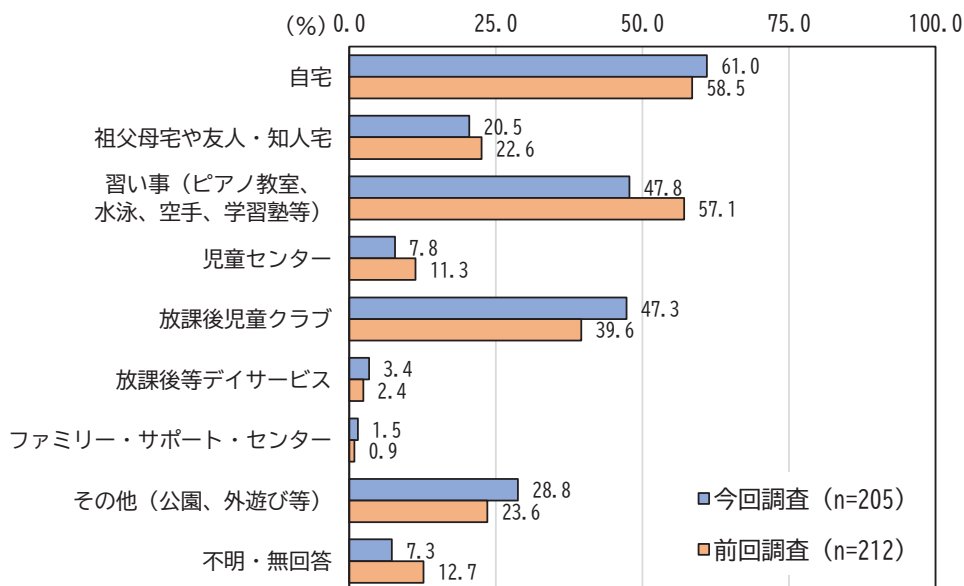
※回答の対象である「定期的な保育・教育事業を利用している方」は、以下のいずれかの利用を指します。

- ・幼稚園または認定こども園幼稚園コース（通常の就園時間の利用）
- ・幼稚園または認定こども園幼稚園コースの預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ）
- ・保育園（認可保育所）または認定こども園保育園コース
- ・認可外保育施設
- ・ファミリー・サポート・センター（子育てを手助けしてほしい人（依頼会員）と「子育ての協力をしていただける人（提供会員）」が会員となって、お互いに助け合う会員組織）
- ・児童発達支援事業所（障害のある子どもに対して、個別や集団での療育を行う施設）

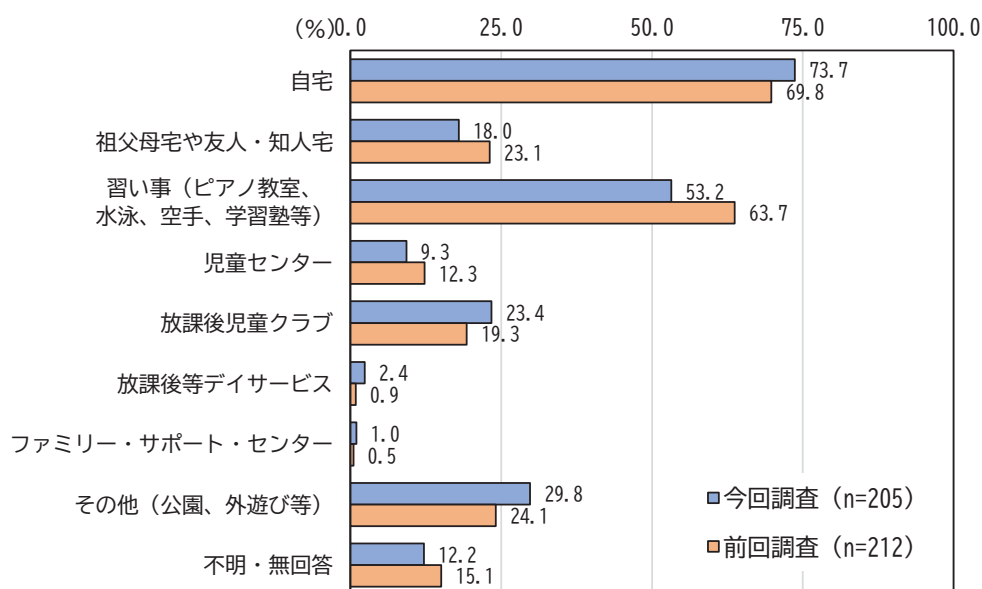
⑤放課後の過ごし方について

就学前（５歳児の保護者のみ）において、小学校就学後の希望する放課後の過ごし方をたずねたところ、「放課後児童クラブ」が低学年時、高学年時ともに利用を希望する割合が前回調査と比較して増加していることから、今後の児童数の動向も含めて検討していく必要があります。

■小学校就学後・低学年時の希望する放課後の過ごし方【就学前】

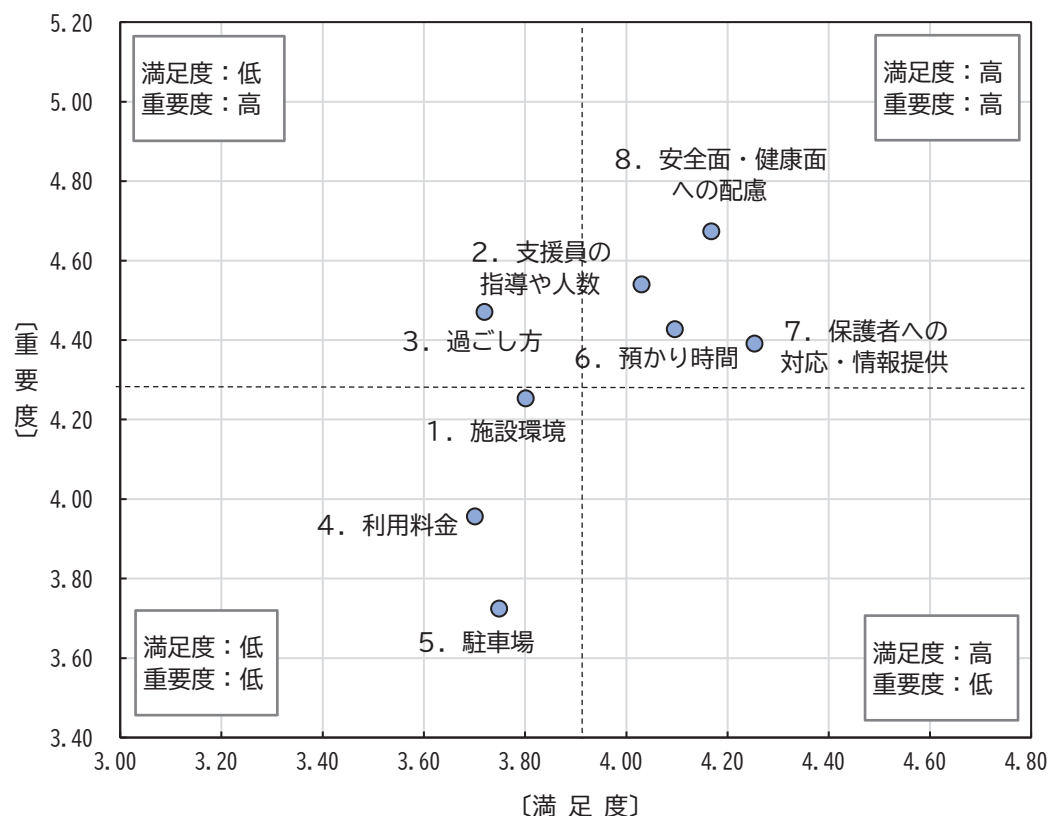


■小学校就学後・高学年時の希望する放課後の過ごし方【就学前】



■放課後児童クラブの満足度・重要度【小学生】

放課後児童クラブの満足度・重要度をたずねたところ、「8. 安全面・健康面への配慮」「7. 保護者への対応・情報提供」「2. 支援員の指導や人数」「6. 預かり時間」で満足度・重要度ともに高くなっています。重要度は高いものの満足度が低い項目は「3. 過ごし方」となっており、放課後の居場所という役割以上に、遊びや宿題などの毎日の過ごし方の充実化に対する保護者のニーズが高まっています。



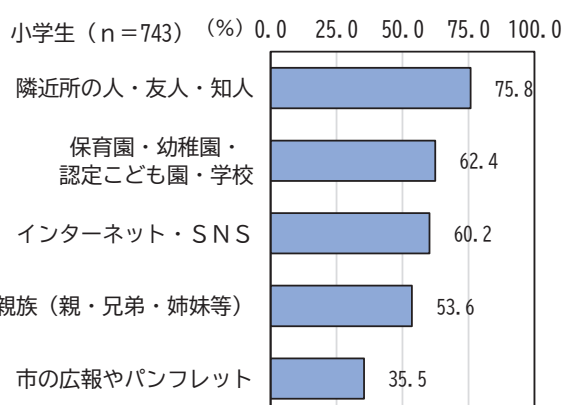
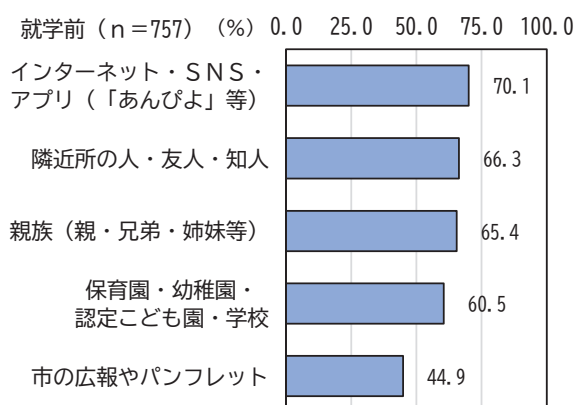
※全8項目について、「重要度」「満足度」とともに5段階評価で、各点数にその点数の回答者数を乗じ、点数ごとに算出した値の合計を総回答者数で割って算出したものを、それぞれの項目の指数とします。(加重平均)

⑥子育て全般について

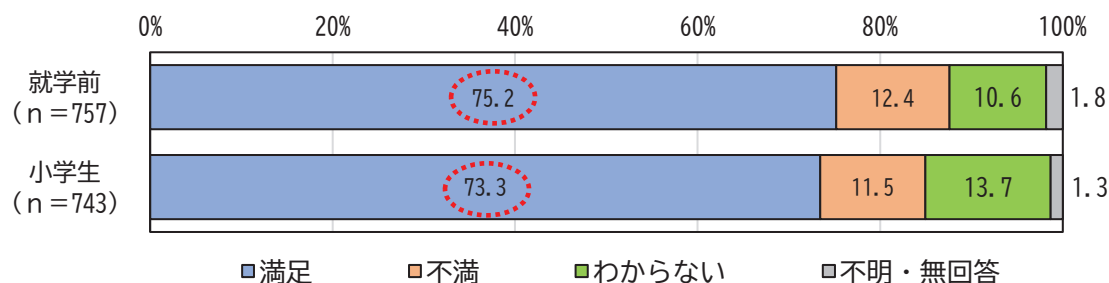
子育て（教育を含む）に関する情報の入手方法をたずねたところ、就学前では「インターネット・SNS*・アプリ」が約7割と最も高く、前回調査よりも12.1ポイント増加しています。スマートフォンやタブレット端末の普及により、情報取得の手段が変化しています。小学生では「隣近所の人・友人・知人」が最も高く、口コミによる情報の取得が多くなっています。

安城市の子育て環境の満足度をたずねたところ、就学前、小学生ともに「満足」が7割以上と、高くなっています。令和5年4月に施行されたこども基本法の認知度については、就学前、小学生ともに「聞いたことがない」が約6割となり、今後のさらなる周知が必要です。

■情報の入手方法※上位5位

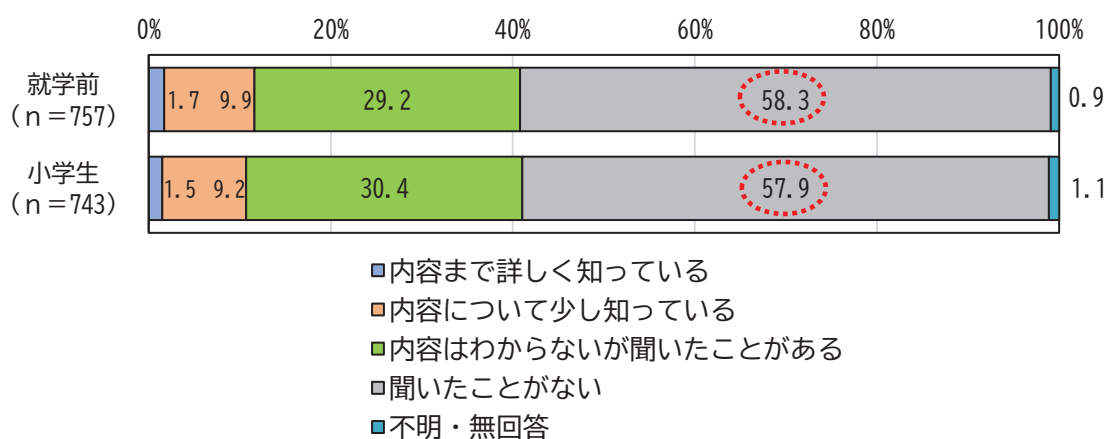


■安城市の子育て環境の満足度



※「満足」は「非常に満足」と「満足」と「やや満足」の合算、「不満」は「非常に不満」と「不満」と「やや不満」の合算

■こども基本法の認知度



(3)こども・若者アンケート結果

※図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表します。

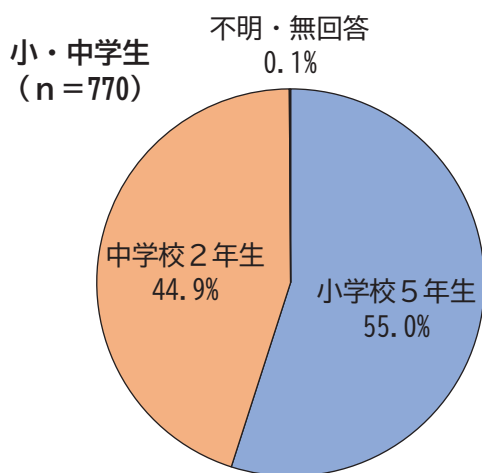
※グラフ中の「小・中学生」は「こどもアンケート（小学5年生・中学2年生対象）」を、「若者」は「若者アンケート（16歳～39歳の市民対象）」を簡略化したものです。なお、「こどもアンケート」において年齢別に分析しているものについてはそれぞれ「小学生」「中学生」としています。

※選択肢は、原則として調査票に記載された表現のままとしています。

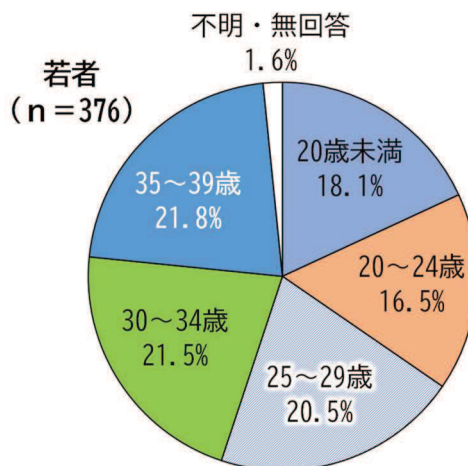
①回答者の属性

小・中学生アンケートにおける回答者の学年は「小学5年生」が55.0%、「中学2年生」が44.9%となっています。また、若者（16歳～39歳の市民）アンケートにおける回答者の年齢はいずれの年代も2割前後ずつとなっています。

■回答者の学年【小・中学生】



■回答者の年齢【若者】

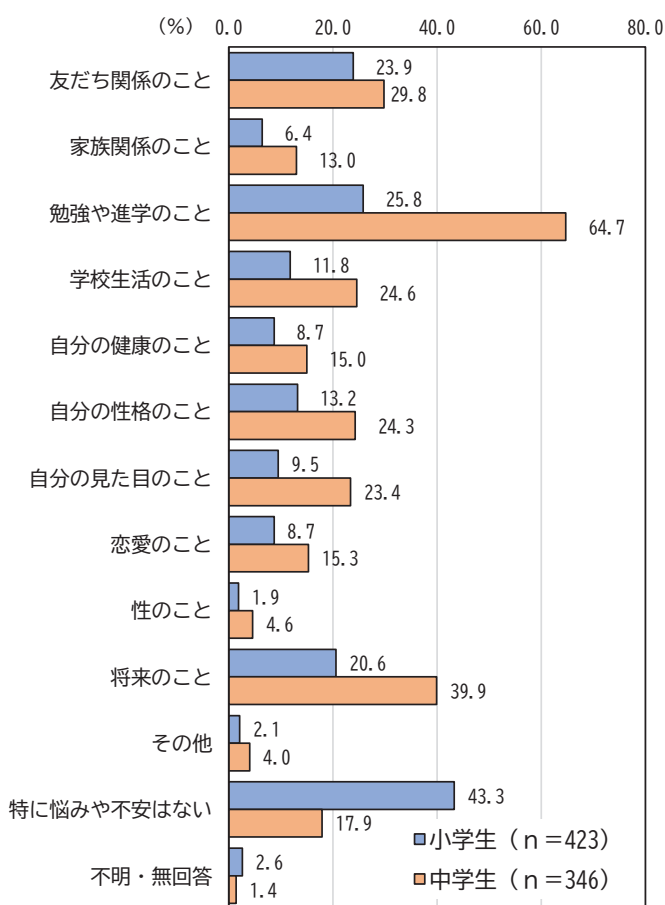


②悩みや不安について

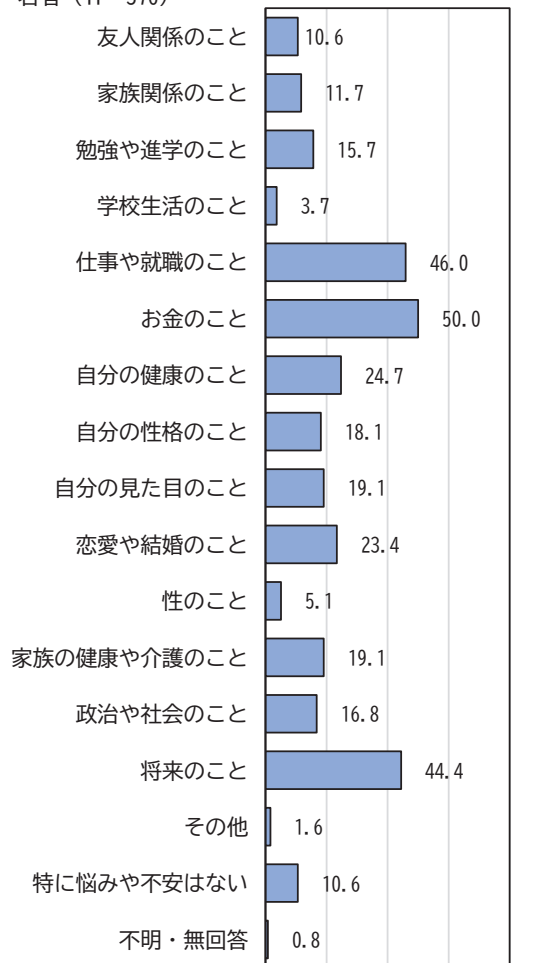
悩んでいることや不安なことをたずねたところ、小学生では「特に悩みや不安はない」が43.3%と最も高くなっています。中学生になると「勉強や進学のこと」が64.7%と突出して高くなっており、次いで「将来のこと」「友だち関係のこと」が続いています。

また、若者では「お金のこと」が最も高く、次いで「仕事や就職のこと」「将来のこと」が続いています。経済面や就労関係についての悩みや不安を持っている方が多くいることがわかります。主な相談相手では、小・中学生、若者アンケートともに「親」が高い割合を占め、若者では「友人・知人」や「恋人や配偶者」も高くなっています。なお、「誰にも相談したくない」と回答した割合が小・中学生、若者アンケートともに約1割みられ、相談先の情報提供やプライバシーを確保できる相談窓口の周知等が求められます。

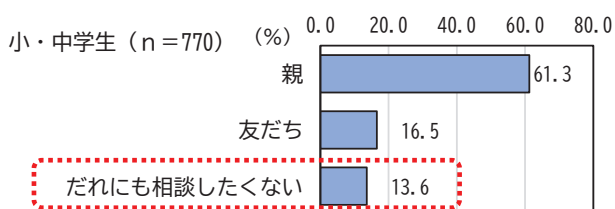
■悩んでいることや不安なこと



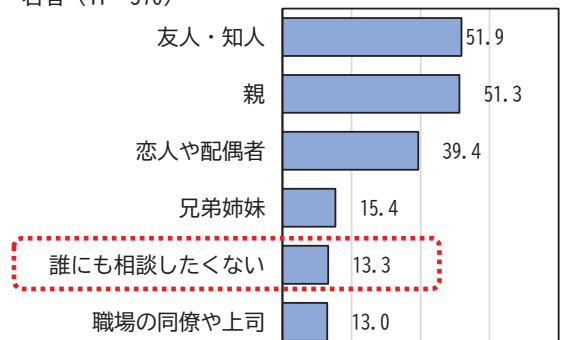
若者 (n=376) (%)



■悩みや不安の相談先 ※10.0%以上を抜粋



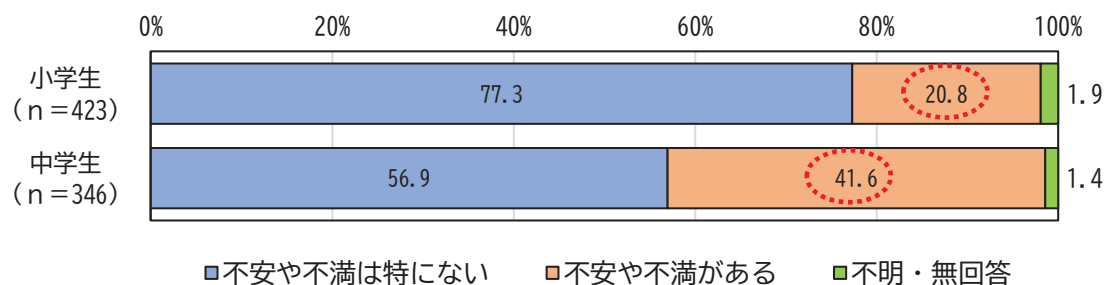
若者 (n=376) (%)



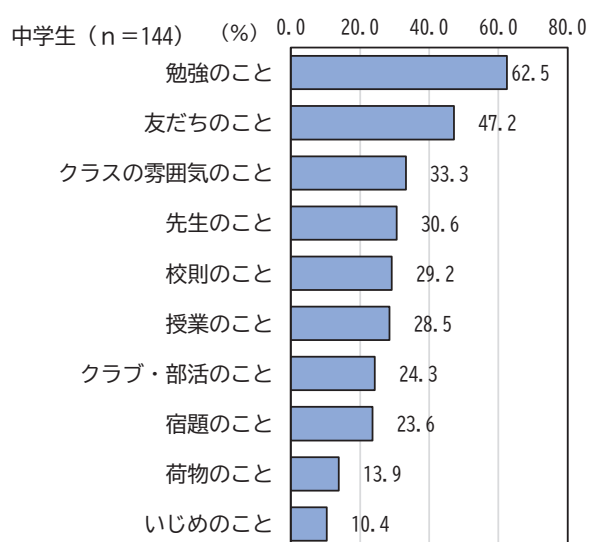
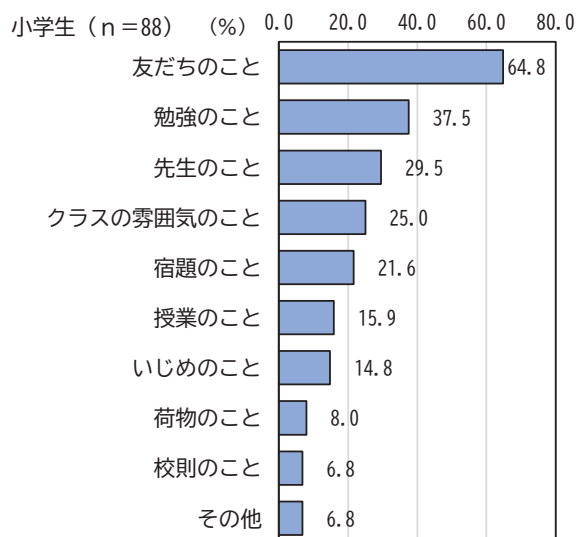
③学校や家庭について

小・中学生に学校への不満をたずねたところ、「不安や不満がある」は小学生で20.8%、中学生で41.6%と、特に中学生で割合が高くなっています。その内容をたずねると、小学生、中学生ともに「友だちのこと」と「勉強のこと」が上位となっています。

■学校への不満【小・中学生】

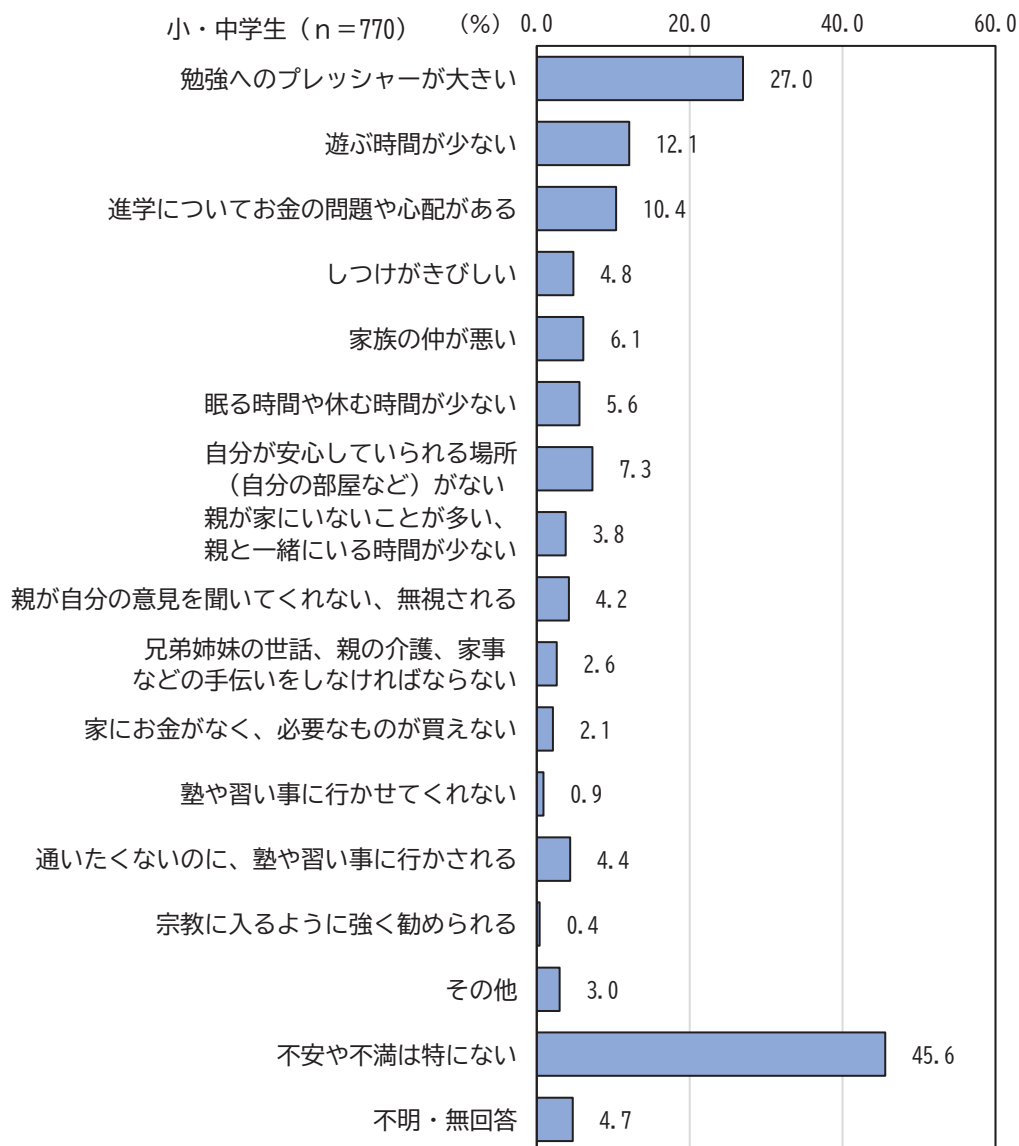


■（学校への不満がある方）学校への不満内容【小・中学生】※上位10位までを抜粋



小・中学生に家族への不満をたずねたところ、「不安や不満は特にない」が45.6%と最も高くなっていますが、次いで「勉強へのプレッシャーが大きい」が27.0%、「遊ぶ時間が少ない」が12.1%、「進学についてお金の問題や心配がある」が10.4%となっています。その他の不満についても5%前後で分散して回答がみられており、多様な悩みを持っていることがわかります。

■家族への不満【小・中学生】

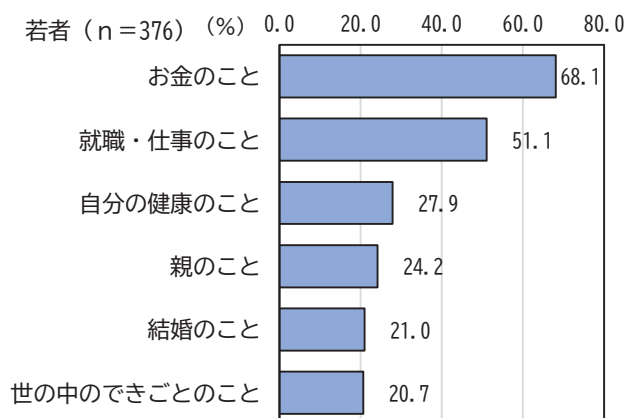


④将来について

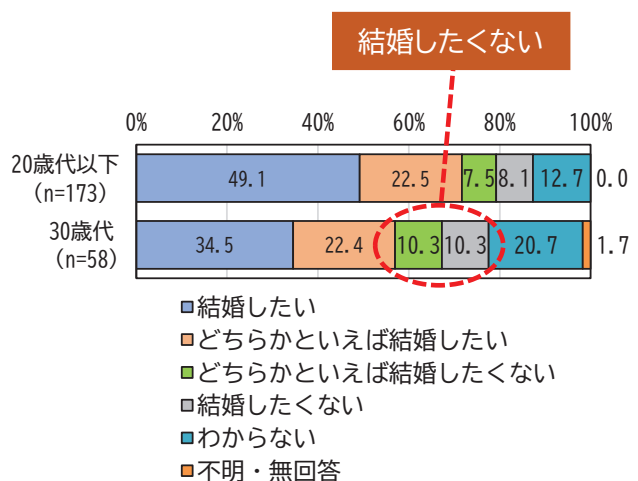
若者に将来に対してどのようなことに不安を感じるかたずねたところ、「お金のこと」が68.1%、「就職・仕事のこと」が51.1%となっています。長引く不況や賃金の低迷などにより、経済的な不安が大きくなっていることがうかがえます。

また、将来結婚したいかをたずねたところ、30歳代では『結婚したくない』（「結婚したくない」「どちらかといえば結婚したくない」の合算）が20.6%、「わからない」が20.7%と、約4割が結婚に前向きな意識が薄い状況です。将来子どもを持ちたいかをたずねたところ、『子どもを持ちたくない』（「子どもを持ちたくない」「どちらかといえば子どもを持ちたくない」の合算）が12.5%、「わからない」が10.6%と2割以上がこどもを持つことに前向きな意識が薄い状況です。子どもを持つイメージとしては、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が60.1%と最も高くなっていますが、「経済的な負担が増える」「自分の自由な時間が制限される」等のマイナスイメージも一定数みられます。様々な観点から子育て世代への支援を充実させるなどして、結婚や子育てに対して前向きにとらえられるような気運の醸成が必要です。

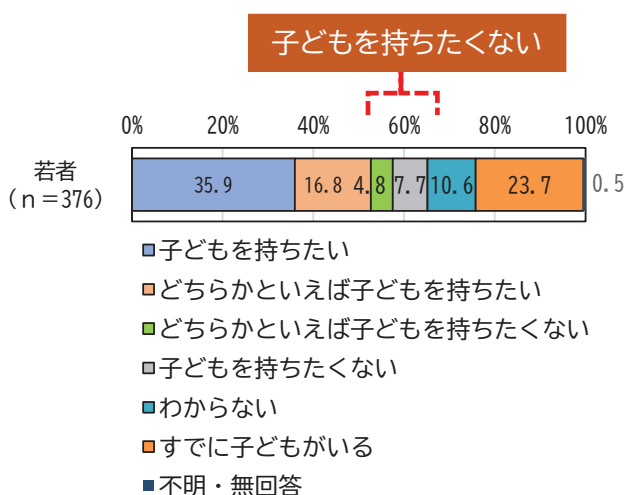
■将来への不安【若者】※20.0%以上を抜粋



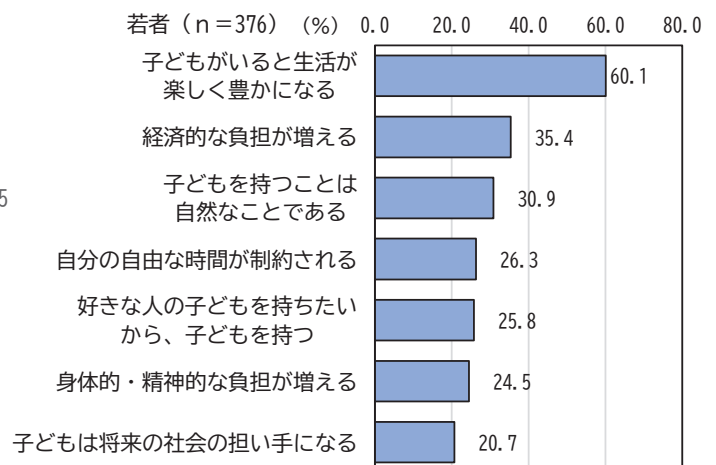
■将来結婚したいか【若者・未婚者】



■将来子どもを持ちたいか【若者】



■子どもを持つイメージ【若者】※20.0%以上を抜粋

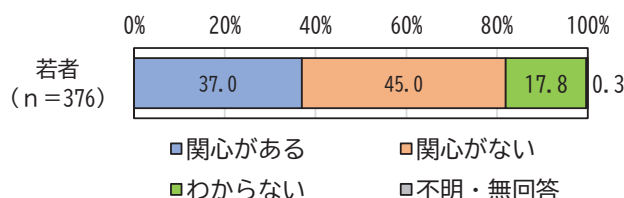


⑤こども・若者支援全般について

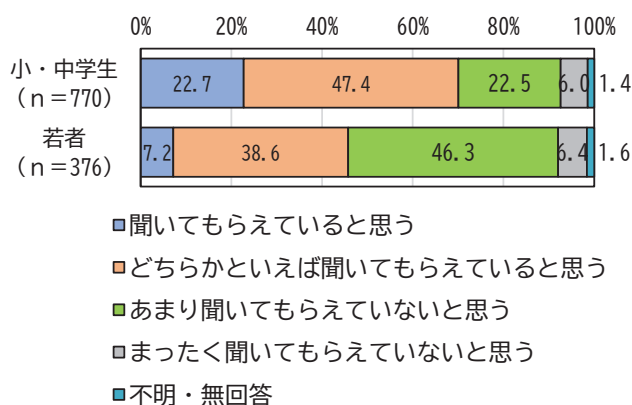
若者に市政への関心度をたずねたところ、「関心がない」が45.0%、「関心がある」が37.0%となっています。こどもの意見が聞いてもらえていると思うかでは、『聞いてもらえていると思う』（「聞いてもらえていると思う」「どちらかといえば聞いてもらえていると思う」の合算）が小・中学生で70.1%、若者で45.8%となっており、若者でやや低くなっています。こども・若者が市政に関心を持てるようにするとともに、こども基本法の考え方に則り、こども・若者の意見の尊重や施策への反映を進めていくことが重要です。

こども・若者のために市に必要なだと思うことをたずねたところ、「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾に行く）ように支援する」が72.1%と突出して高くなっており、経済面での支援が求められています。

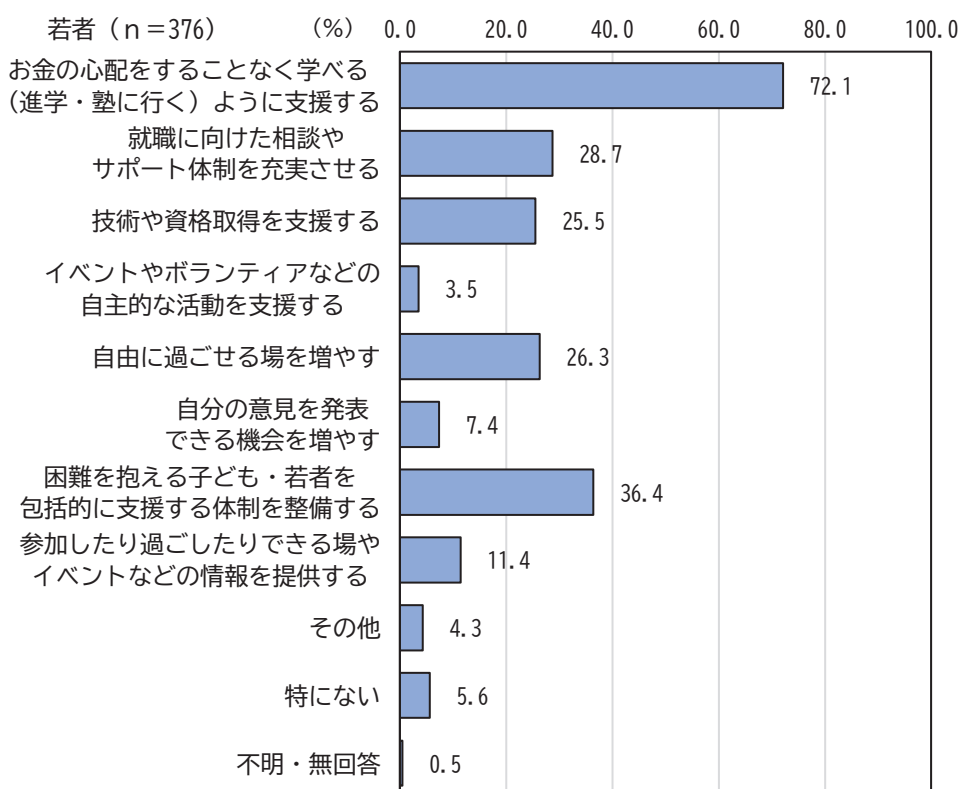
■市政への関心度【若者】



■安城市の取組において、こども・若者の意見を聞いてもらえていると思うか【小・中学生】【若者】



■こども・若者のために市に必要なだと思うこと【若者】



3 関係機関・団体調査、ワークショップからみるこども・若者の意見

(1)関係機関・団体調査

①実施概要

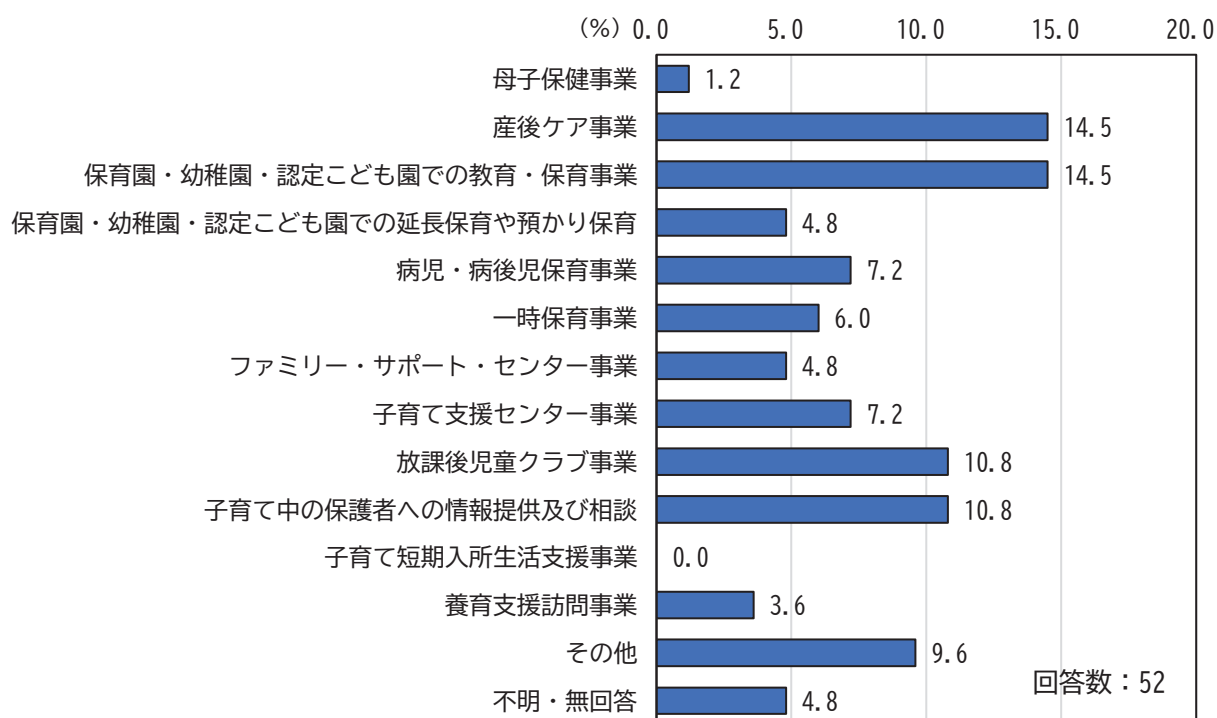
本計画の策定にあたり、アンケート調査からは十分に把握できない課題や、実際のこどもに関わる現場における実感・必要な支援等の確認を目的として、こどもや子育て支援に関わる関係機関・団体に対する調査を実施しました。

■実施概要

区分	内容
実施期間	令和6年4月～5月
実施方法	WEB 回答フォームを通じての実施
回収状況	89 団体に配布／52 団体から回答（回収率 58.4%）
対象機関・団体	主任児童委員、子育て支援サークル、子育てサークル、「つどいの広場」委託業者、私立保育園・幼稚園・認定こども園、子ども食堂、母子寡婦福祉会、若者総合相談窓口「あんさぼ」、スクールカウンセラー*、障害児相談支援事業所、フリースクール、児童養護施設

②子育て支援サービスについて

本市の子育て支援サービスにおいて、特に充実・改善が必要と感じていることは「産後ケア事業」と「保育園・幼稚園・認定こども園での教育・保育事業」がともに14.5%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ事業」と「子育て中の保護者への情報提供及び相談」がともに10.8%となっています。



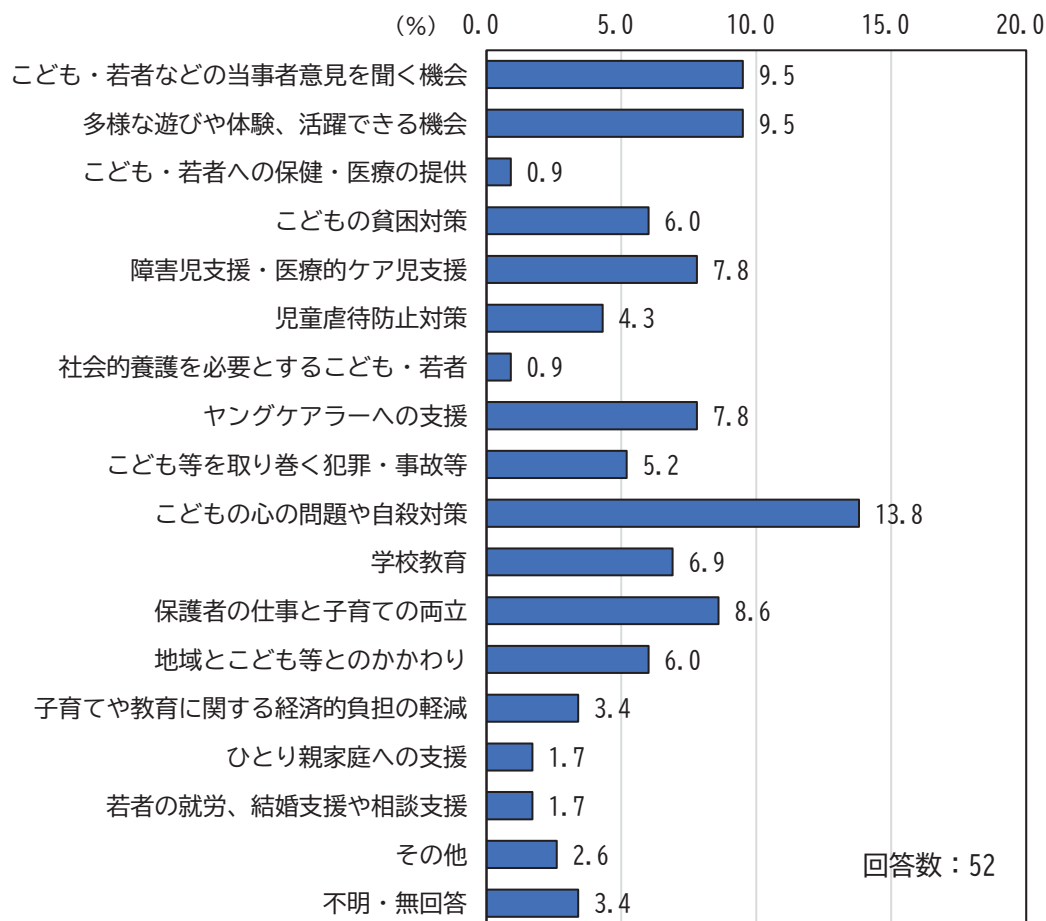
特に意見が多くあがっている4事業について、具体的な課題や意見は次のとおりとなっています。

■選択した事業に対する主な意見

選択した事業	主な意見（抜粋）
産後ケア事業	<p>【事業の周知に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度を周知すれば希望する人は多くいると思う。 ・事業を知らない人が非常に多い。 <p>【経済的負担に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段が高くて通えないという声を聞く。 <p>【利用を通じた母子の支援への充実に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが気軽に利用できるようになると良い。 ・母子が孤立しないようにサポートしてほしい。 ・初めての出産後、1人で悩んでいるお母さんが沢山いるようである。
保育園・幼稚園・認定こども園での教育・保育事業	<p>【育休退園*に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育休退園の問題が解消できれば、安心して子育てできる環境となる。 ・育休退園後の再調整はこども、保護者ともに心的不安が大きい。 <p>【少子化による児童数の減少のこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化により0歳児の利用が減っている。 <p>【保育士等の拡充に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士1人あたりのこどもの数を少なくしてほしい。 ・より多くの保育士を配置するための支援がほしい。 <p>【多様な児童への対応に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の遅れや特性のあるこどもを積極的に受け入れてほしい。
放課後児童クラブ事業	<p>【保護者の就労等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園等を卒園したこどもの保護者で、利用を希望する人が入れるか不安を抱えている。 ・働き方も多様化しているので、誰もが利用できるように利用条件を緩和してほしい。 <p>【過ごし方等の充実に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童に馴染めず、通えないという相談を受ける。 ・例えば習い事に行けるなど、民間と連携できたら良いと思う。 <p>【多様な児童への対応に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度発達障害児の受け入れが増加している。
子育て中の保護者への情報提供及び相談	<p>【子育て情報等の発信に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入者のために積極的に情報提供できるシステムがあるとよい。 ・産後の講座について、もっと知らせてほしい、宣伝不足でもったいない、という声があった。 <p>【相談対応に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にじっくりお話を聴く時間を取りたいが、保育士数が足りず現実的に難しい。 ・中学校卒業後にも相談できる場所がほしい。 ・悩んだときにどこへ相談しに行ったら良いかわからない保護者の方が多い。

③こども・若者や子育て家庭を取り巻く課題について

本市のこども・若者や子育て家庭を取り巻く課題の中で気になることは、「こどもの心の問題や自殺対策」が13.8%で最も高く、次いで「こども・若者などの当事者意見を聞く機会」と「多様な遊びや体験、活躍できる機会」がともに9.5%となっています。



■選択した事業に対する主な意見

選択した事業	主な意見（抜粋）
こどもの心の問題や自殺対策	<p>【不登校に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校、不登校傾向のこどもが年々増えている。 ・不登校のこどもが増えているのを感じる。 ・不登校をなくすことを目標とするのではなく、こどもが選択できる環境を整備できるとよい。 ・死という言葉や自傷行為について聞く機会が以前より多くなっていると感じる。 <p>【SNS*に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSによりたくさんの情報が入りすぎている。 <p>【複合的な課題に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に何らかの障害がある家庭への対応が必要。 <p>【社会全体のあり方に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの立場からは親に心配をかけたくない思いがあることを理解することが重要。 ・多様性を認める社会になることが良いのではないかな。

選択した事業	主な意見（抜粋）
こども・若者などの当事者意見を聞く機会	<p>【こども・若者の意見に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の場でこども・若者の意見を聞く機会を増やすことが大切だと思う。 ・様々な状況の中で、オープンにしてほしくないと思いついてしまふこどもたちが、安心して意見表明できる場が必要。 ・こどもが意見を言うことが苦手になっている。 <p>【保護者の意見に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てや仕事に追われ、保護者が意見を伝える機会がとれない。
多様な遊びや体験、活躍できる機会	<p>【部活動に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動がなくなること、こどもの体験が少なくなることが心配。 <p>【場所や機会に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日や戸外遊びができない暑い日等利用できる施設を充実してほしい。 ・スケートボードパークなど、活発なこどもが遊べる場が必要だと思う。 ・公園で遊ぶこどもが減ってきたように感じる。 ・安城市では様々なこども向けの体験機会があってよい。今後も様々な学びに触れる機会を充実し、こどもたちの経験値にしていきたい。
保護者の仕事と子育ての両立	<p>【両立を支える支援に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きが増え、夫婦の役割も様々であり、企業側のシステムの変換を期待したい。 ・頼れる人が近くにいないと働くのは大変。 ・入園できようだがバラバラの園に通うことになってしまう問題。仕事に復帰してからのハードルが一気に上がると感じる。
障害児支援・医療的ケア児支援	<p>【障害のあるこども等への支援に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族が希望する園や学校への入園、入学が難しい。 ・「障害」と認定されない、いわゆるグレーゾーンのこどもたちが、制度の間で苦しんでいると感じる。その子の現状に合ったサービスや支援が受けられると良い。 <p>【保護者支援に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な子が多く、保護者に理解していただけるように働きかけてほしい。 ・保護者自身も障害等をもつなど、こどもだけでなく家庭全体に課題があり、支援が難しいケースが増えている。
ヤングケアラー*への支援	<p>【ヤングケアラーの認識・早期発見に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報として入ってきづらく、個人情報への壁もあり対応出来ない。 ・自分自身がヤングケアラーであると認識していないことも多い。関わる大人が知識を持ちアンテナを張ってもらえるとよい。 ・ヤングケアラーとまでは言えないにしても、こどもの家事の負担が大きいと感じるケースがある。

(2) 高校生ワークショップ

① 実施概要

本計画の策定にあたり、高校生が感じている身近な課題や市への意見・要望等を収集するとともに、こども・若者の意見を計画に反映するための基礎資料を得るために「こどもまんなか社会」に向けた高校生ワークショップ」を実施しました。

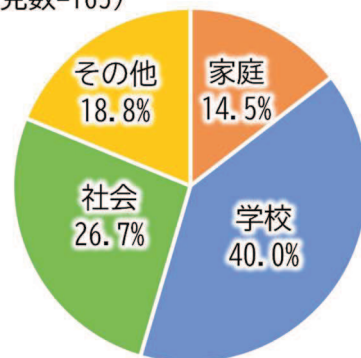
■ 実施概要

区分	内容
開催日時	令和6年5月26日(日) 13時～15時30分
開催場所	安城市民会館 大会議室
実施方法	グループワーク形式
参加者	安城市内の高校等に通学する生徒を対象に、高校等を通じて募集し、参加意向のあった高校生24人
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの権利・こども基本法についてのミニ講義 ・ 「こども・若者の権利が守られていないと思うことや、身近なところで課題だと感じることを、こうなったらいいなと思っていること」について、『家庭』『学校』『社会』『その他』の4つの区分で意見交換を行う。

② 家庭・学校・社会等におけるこども・若者の権利に関する課題

4つのグループに分かれて出された意見は、全部で165件となりました。内訳では「学校」に関することが最も多くなっており、次いで「社会」が続いています。主な意見は、以下のとおりです。

(意見数=165)



家庭について

○意見内容では、行動を制限されることなどから（門限や過保護すぎる等）信用してもらえないと感じていることに関する意見や、話を聞いてほしい・認めてほしい・ほめられたいなどの、こども自身に関心を持って接してほしいという意見が多くあがっています。

○そのほか、きょうだい間での比較や対応の差に関することや、進路に関して自由に選択させてほしいという意見も複数みられています。

【主な意見の抜粋】

- ・ 私の意見を聞かないで、勝手にきめつけて話を進めないでほしい。
- ・ きょうだいで比べられることがあり、一人ひとりを見てほしい。
- ・ 門限に厳しすぎて嫌だ。
- ・ どんな成績をとってもきちんと褒めてほしい。
- ・ 学費の関係で、行きたい進学先が限られてしまう。

学校について

- 校則に関する意見は、制服や頭髪、身だしなみに対し、個性を出したい、おしゃれを楽しみたいという意見が多く出されています。校則のあり方そのものに対する意見として、生徒の意見を反映させてほしい、生徒間や生徒と学校間での意見交換が必要ではないかという意見もあがっています。
- 校則に限らず、部活動、進路選択などの機会においても生徒の意見を反映してほしいという意見や、少数派の意見の尊重、気軽に話せる空間が欲しいといった、学校に対する生徒自身の意見を聴く機会の充実を求める意見も多くあがっています。
- そのほか、不登校などの生徒への対応や学校施設の改善、教育内容の充実などに関する幅広い意見が出されています。

【主な意見の抜粋】

- ・なくてもいい校則をなくしてほしい！
- ・学校によって校則が違い、他校との差が大きいため、学校の校則について生徒の意見を先生に聞いてほしい。
- ・自分のしたい事を提案した時に、理由も言われず否定された事があるので、しっかり納得できる説明をこどもに対してでもしてほしい。
- ・大人になってから活用できる知識を小学校から学ばせてほしい！
- ・不登校の子が学校に通えるように、不登校の子に向けた特別教室をつくってほしい。

社会について

- 意見内容で最も多かったのは、スマートフォンやSNS*に関する事となっており、利用の低年齢化や利用しすぎることの問題点についての意見が多くあげられています。
- 悩みを共有できたり、友達に言えない相談ができたりする等の、話し合い・相談ができる場や人を求める意見も複数みられます。
- そのほか、学歴や見た目等で差別されたり、区別されることに対する問題提起や学費等の経済支援、子育て支援を求める意見があげられています。

【主な意見の抜粋】

- ・同じ価値観をもっている人たちと悩みを共有できる場所がほしい！
- ・差別がなくみんなが受け入れられる社会になってほしい。
- ・社会制度について知るのが遅いため、大人になっても知らないことがたくさんある。
- ・私達こどもの意見が社会に届いていない気がする…。
- ・SNSでよくひどい言葉を言っている人がいて、よくないなと思った。
- ・SNSを使う年齢をもっと上げてほしい。
- ・悩みが言える人がほしい。

その他について

- 「その他」は、地域、居場所、家庭や学校以外の場（塾やスポーツクラブ等）に関する意見です。意見内容で最も多かったのは、公園などの遊び場の不足に関する事となっています。ス

スポーツができる場、広い公園等を求める意見が多くあがっています。

○居場所に関しては、勉強できる場、友達とおしゃべりができる場など、様々な用途で自由に過ごせる居場所が求められています。

○そのほか、街灯や防犯カメラの設置など地域の安全確保に関すること、あんくるバスに関する
こと、地域のスポーツクラブや子ども会等の地域活動に関する意見が出されています。

【主な意見の抜粋】

- ・地域、行政、学校等の連携をもっとしてほしい。
- ・公園に防犯カメラを設置してほしい！（もう少し増やしてほしい）
- ・公園でボールが使用できない所があるので、もっと自由に使える場が増えてほしい。
- ・公園で遊んでいるとクレームを言うてくる人がいて、公園を使えない。
- ・静かに勉強できるスペースと友達と話して勉強できるスペースが、しっかり分かれている施設がほしい。
- ・若者向けの施設などを増やしてほしい(スポーツできる場所)。

③安城市や大人たちに言いたいことを一言メッセージ



幸福感と満足感が平等に受けられる社会

…にしてほしい、していきたい！



どんな天気でも静かに勉強したい人も楽しく
会話したい人も無料で使えるスペースを！

ぜひ、安城市に！



こどもを尊重するための投資

…をお願いします！



わたしたちの意見をきいてください！

こども・若者の意見が尊重される社会へ